

おたふくかぜワクチンについての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

1) おたふくかぜ

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎、ムンプス)はムンプスウイルスが原因の急性感染症です。感染してから発症までの期間(潜伏期)は12~25日(通常は16~18日)です。両側あるいは片側の耳下腺が腫れるのが特徴です。

合併症は頭痛や吐き気などの髄膜刺激症状が10~15%に、髄膜炎が1~3%に見られますが後遺症はほとんど残しません。5000に1人ぐらいに髄膜脳炎が合併し、後遺症を残す可能性があります。まれに難聴を残すことがあります。思春期以降の男性では14~35%に睾丸炎や副睾丸炎が合併しますが、完全に機能がなくなることは少ないとされています。

2) ワクチンの効果

ワクチン接種により、約90%に十分な免疫がつきます。5年程度の間隔をあけて2回接種することにより長期の免疫が確保できます。

3) ワクチンの特徴

ムンプスウイルスを弱毒化し、凍結乾燥した生ワクチンです。

4) 接種方法

1歳を過ぎて、0.5mlを1回皮下注射します。小学校入学前に2回目を接種します。

5) 副反応

接種後2~3週に一過性の耳下腺腫脹や発熱が2~3%、接種後2~4週に無菌性髄膜炎が数千人に1人程度認められます。

6) 接種上の注意点

○おたふくかぜ流行中の接種は差し支えありません。おたふくかぜワクチンにより時に無菌性髄膜炎を発症することがありますが、自然のおたふくかぜに罹患した場合に比較して頻度は少ないことが知られています。

○生ワクチンですので、ガンマグロブリン投与後は一定期間ワクチンの接種ができません。

7) 接種後の注意

ワクチン接種後30分間は院内にとどまり、様子を観察してください。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。

9) その他

他のワクチンを続けて接種するときは4週間以上の間隔をあけて下さい。